

FutureNet CMS-1300
ユーザーズガイド（管理者編）
Ver.2.4.0 対応版



1.	はじめに	4
1.1.	用語	4
2.	本装置の概要	5
2.1.	各部の名称と機能	5
2.1.1.	製品前面	5
2.1.2.	製品背面	8
2.1.3.	本体 HDD ストレージ	9
2.1.3.1.	HDD の構成	9
2.1.3.2.	HDD の監視	10
2.1.3.3.	HDD の操作権限	10
2.2.	本装置のスイッチ操作	11
2.2.1.	本装置の起動 (通常起動・Init スイッチによる起動)	11
2.2.2.	本装置の停止 (正常終了・強制終了)	12
2.2.3.	USB フラッシュメモリの接続・取り外し	12
3.	ログイン	13
3.1.	本装置へのログイン方法	13
3.2.	ログイン画面	15
3.2.1.	ログイン成功	16
3.2.1.1.	セッション	16
3.2.2.	ログイン失敗	17
4.	画面仕様	19
4.1.	システム	19
4.1.1.	システム情報	20
4.1.1.1.	システム基本設定	20
4.1.1.2.	システム状態	21
4.1.1.3.	内部ストレージ情報	24
4.1.1.3.1.	HDD の交換手順	26
4.1.1.3.2.	HDD の復旧手順	30
4.1.2.	ネットワーク I/F	31
4.1.2.1.	項目追加	32
4.1.2.1.1.	項目：アドレス	33
4.1.2.1.2.	項目：インターフェース ID	34
4.1.2.1.3.	項目：ルーティング	35
4.1.2.1.4.	項目：MTU	36
4.1.3.	DNS サーバ	37
4.1.3.1.	DNS サーバアドレス設定	37
4.1.3.2.	DNS 情報	37
4.1.4.	時刻設定	38
4.1.4.1.	CMS システム時刻	38
4.1.4.2.	NTP 設定	39
4.1.4.2.1.	NTP 状態	39
4.1.5.	SYSLOG	40
4.1.5.1.	CMS SYSLOG 設定	40
4.1.5.2.	CMS SYSLOG ファイル	41
4.1.6.	SNMP	42
4.1.6.1.	SNMP エージェント設定	42
4.1.7.	テナント	43
4.1.7.1.	テナントデータのインポート	44
4.1.7.2.	テナントの追加	45

4.1.7.3.	テナントの編集	46
4.1.7.4.	テナントの削除	47
4.1.8.	アカウント	48
4.1.8.1.	アカウントの追加	48
4.1.8.2.	アカウントの編集	49
4.1.8.3.	アカウントの削除	51
4.1.9.	システムデータ	52
4.1.9.1.	システムデータの退避と復帰	52
4.1.9.1.1.	本体 HDD ストレージ (全体)	53
4.1.9.1.2.	本体 HDD ストレージ (最小)	55
4.1.9.1.3.	本体 USB ストレージ (全体)	57
4.1.9.1.4.	本体 USB ストレージ (最小)	58
4.1.9.2.	初期化 (システムデータ・本体 USB ストレージ)	59
4.2.	ログ	60
4.2.1.	ログ検索条件ダイアログ	61
4.3.	アカウント	62
4.3.1.	アカウント情報	62
4.3.2.	ログインパスワード変更	62
4.3.3.	多要素認証	63
4.3.3.1.	TOTP 有効	64
4.3.3.2.	TOTP 無効	66
4.3.3.3.	バックアップコード作成	67
4.3.3.4.	バックアップコード表示	68
5.	Appendix	69
5.1.	サポートについて	69
5.2.	工場出荷設定値 (初期値)	70
5.3.	イベントログ一覧	71

1. はじめに

本書は、FutureNet CMS-1300 のユーザーズガイド(管理者編)です。

CMS-1300 の機器管理に必要な項目、および admin アカウントが必要な設定項目について記載しています。

それ以外の項目については、ユーザーズガイド(テナント編)を参照してください。

1.1. 用語

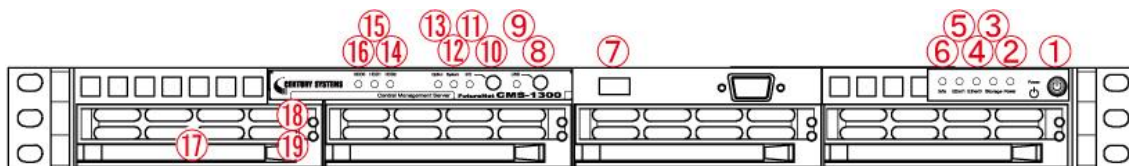
本書で使用する用語です。

CMS	FutureNet CMS-1300
管理対象機器	FutureNet NXR シリーズ等

2. 本装置の概要

2.1. 各部の名称と機能

2.1.1. 製品前面



LED の表示は、● (消灯)、● (点灯)、* (点滅) を示します。

① Power スイッチ	<p>停止中 (スタンバイ状態) に Power スイッチを押すと、システムが起動します。</p> <p>ただし、通電開始直後は、30 秒以上待ってから、Power スイッチを押してください。</p> <p>起動中に Power スイッチを押すと、終了処理を行いスタンバイ状態に移行します。</p> <p>詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。</p>	
② Power LED	本装置の起動中	●
	停止中 (スタンバイ状態)	●
③ Storage LED	内部ディスクへのアクセス時	*
④ Ether0 LED ⑤ Ether1 LED	対応する Ethernet ポートの状態を表示します。	
	Link Down	●
	Link Up	●
	通信中	*
⑥ Information LED	電源ユニットの異常時や、温度やファン異常時に、点滅または点灯します。	*/●
⑦ USB ポート	USB フラッシュメモリを接続します。	
⑧ USB スイッチ	USB フラッシュメモリを取り外すときに使用します。 詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。	
⑨ USB LED	USB フラッシュメモリの接続状態を表示します。	
	未接続時	●
	接続時	●
⑩ Init スイッチ	<p>admin パスワードを忘れた場合などに使用します。</p> <p>システム起動時 (通電開始時、または Power スイッチ押下時) に、本スイッチを約 3 秒間押し続けると、Init LED が点灯します。</p> <p>Init LED が点灯した際は、admin パスワードや IP アドレスなどが初期化された状態でシステムが起動します。</p> <p>詳細は「2.2 本装置のスイッチ操作」を参照してください。</p>	
⑪ Init LED	Init スイッチによる起動時	●
	詳細は、次項を参照してください。	
⑫ System LED	機器の状態を表示します。 詳細は、次項を参照してください。	
	システム起動中 (ログイン可能状態)	●
⑬ Option LED	本バージョンでは使用しません。	

⑭ HDD2 LED ⑮ HDD1 LED ⑯ HDD0 LED	ディスク 2、ディスク 1、ディスク 0 の装着状態を表示します。 HDD の構成は「2.1.3.1 HDD の構成」を参照してください。	
	装着済 (raid)	●
	装着済 (spare)	●
	装着済 (-)	*
	未装着 (または不明)	●
⑰ RAID (HDD ベイ)	前面に 4 個の HDD ベイを配置しています。 詳細は「2.1.3.1 HDD の構成」を参照してください。	
⑱ Activity LED	各 HDD ベイに、装備しています。	
	アクセス時	●
⑲ Fail LED	各 HDD ベイに、装備しています。 異常が発生した場合は、該当する HDD ベイの Fail LED が点灯 (または点滅) します。	
	正常時	●
	故障時	●
	rebuilding 時	*

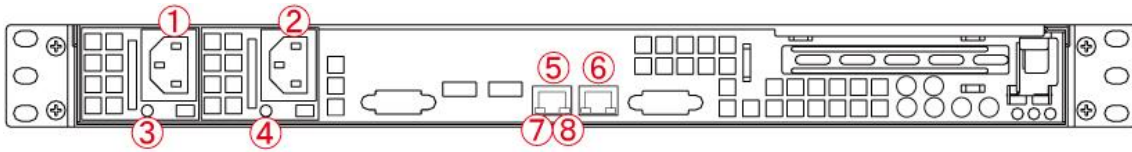
- 本装置の動作と LED (System LED と Init LED) の表示関係

本装置の動作 (本装置の状態)	LED の表示		備考
	System LED	Init LED	
停止中 (スタンバイ状態)	●	●	—
機器起動 (起動処理中)	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 45 秒間
	*	●	約 15 秒間
機器再起動 (再起動処理中)	*	●	約 2 秒間
	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 45 秒間
	*	●	約 15 秒間
機器停止 (停止処理中)	*	●	約 10 秒間
Init スイッチによる起動 (起動処理中)	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 3 秒間
	●	●	約 40 秒間
	*	●	約 15 秒間
ファームウェア更新 (機器再起動まで)	**	●	約 20 秒間
	*	●	約 2 秒間
	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 45 秒間
	*	●	約 15 秒間
システムデータの初期化 (機器再起動まで)	*	●	約 12 秒間
	●	●	約 1 秒間
	●	●	約 45 秒間
	*	●	約 15 秒間
起動処理完了 (ログイン可能状態)	●	●	—
ハードウェア異常	**	**	—

※ LED の表示は、● (消灯)、● (点灯)、* (点滅)、** (高速点滅) を示します。

※※ LED の表示時間は、工場出荷状態で計測した値です。

2.1.2. 製品背面



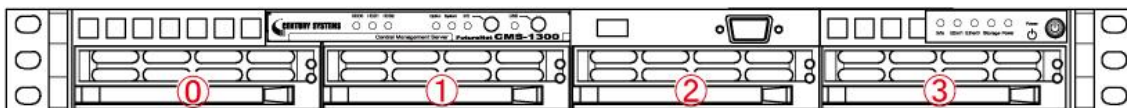
① 電源ケーブル差込口	付属の電源ケーブルを接続するコネクタです。	
② 電源ケーブル差込口	電源ケーブルは必ず付属のものを使用してください。 本装置は、電源ユニット（400W）を2個搭載しています。	
③ 電源ユニット・ステータスLED	機器起動時	●
④ 電源ユニット・ステータスLED	停止中 (スタンバイ状態)	●
⑤ Ether0 ポート	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet	
⑥ Ether1 ポート	ポートです。	
⑦ Activity LED	Ethernet のリンク状態を示します。	
	Link Down	●
	Link Up	●
	通信中	*
⑧ Speed LED	Ethernet のリンク状態を示します。	
	未接続	●
	10BASE-T モード	●
	100BASE-TX モード	●
	1000BASE-T モード	●

2.1.3. 本体HDDストレージ

CMSは本体内部のHDDストレージを使用します。

2.1.3.1. HDDの構成

CMS の本体 HDD ストレージの構成について示します。



番号	①	②	③	
物理ポート	port 0	port 1	port 2	blank
UI の表示	ディスク 0	ディスク 1	ディスク 2	-
属性	raid	raid	spare	-

※ 「blank」は、HDD なしのスロットです。

※ 属性は、工場出荷状態の値です。

※ CMS の HDD 構成は、raid (2 台) と spare (1 台) の構成が正常な状態です。

工場出荷設定の状態では、本体 HDD ストレージが正常動作している場合、「ストレージ状態」は、次のように表示されます。

システム テナント 機器一覧 ログ アカウント

システム情報

ネットワークI/F

DNSサーバアドレス

時刻設定

SYSLOG

SNMP

テナント管理

システムデータ

内部ストレージ情報

状態 S.M.A.R.T情報 (ディスク0) S.M.A.R.T情報 (ディスク1) S.M.A.R.T情報 (ディスク2)

ストレージ状態

RAID状態: OK

スペア状態: OK

ディスク0状態: OK (raid)

ディスク1状態: OK (raid)

ディスク2状態: OK (spare)

ディスク番号 0

2.1.3.2. HDDの監視

本体 HDD ストレージのステータスを、定期的に監視（60 秒周期で監視）しています。HDD に異常が発生した場合、また HDD が異常状態から復旧した場合、当該イベントをイベントログに表示します。

分類	日時	発行元	対象	イベント
情報	2020-07-02 11:49:31	ユーザ:admin	CMS	ログイン(192.168.0.1)
エラー	2020-07-06 10:48:57	CMS:CMS	CMS	DISK エラー発生(disk1 status:NOT-PRESENT)
情報	2020-07-06 10:50:57	CMS:CMS	CMS	DISK エラー復旧(disk1 status:OK)
HDD に異常が発生した場合				
DISK エラー発生(ディスク番号 : status : HDD のステータス)				
HDD が異常から復旧した場合				
DISK エラー復旧(ディスク番号 : status:OK)				

2.1.3.3. HDDの操作権限

「admin アカウント」および「テナントアカウント」が実行できる本体 HDD ストレージに関する操作は次のとおりです。

操作内容	admin アカウント	テナント アカウント
内部ストレージ情報の状態表示	○	×
スペア作成	○	×
ディスク削除	○	×
HDD ストレージ（最大/最小）へ システムデータの退避	○	×
HDD ストレージ（最大/最小）から システムデータの復帰	○	×
システムデータ（最大/最小）のダウンロード	○	×
システムデータ（最大/最小）のアップロード	○	×
HDD ストレージへ テナントデータの退避	×	○
HDD ストレージから テナントデータの復帰	×	○
テナントデータのダウンロード	×	○
テナントデータのアップロード	×	○

2.2. 本装置のスイッチ操作

本装置のスイッチ（Power スイッチ、Init スイッチ、USB スイッチ）を伴う操作について説明します。

2.2.1. 本装置の起動（通常起動・Initスイッチによる起動）

- 通常起動

<ul style="list-style-type: none"> ● 本装置が停止状態（スタンバイ状態）であることを確認します。 ● 前面の「Power スイッチ」を押下すると、システムが起動します。 ※ 通電開始直後は、30 秒以上待ってから、「Power スイッチ」を押下してください。 ● 起動が完了すると、前面の「System LED」が点灯（●）します。

- Init スイッチによる起動（admin パスワードを忘れた場合）

<ul style="list-style-type: none"> ● 本装置が停止状態（スタンバイ状態）であることを確認します。 ● 「Init スイッチ」を押しながら（押したままの状態）、「Power スイッチ」を押下します。 ● 約 3 秒後に「Init LED」が点灯（●）します。「Init LED」の点灯を確認してから、「Init スイッチ」を放します。 ● 本装置の起動が完了すると「System LED」が点灯（●）します。 ※ admin パスワード、およびインターフェースの設定は、工場出荷設定値です。
--

Init スイッチによる起動は、admin アカウントでログイン出来なくなってしまった場合の救済策です。

そのため、一部の設定に工場出荷設定値を使用して起動します。

通常起動の場合と異なる点を以下に示します。

- ✓ admin アカウントのパスワード

Init スイッチによる起動	工場出荷設定値「admin」を使用します。
次回の通常起動	工場出荷設定値「admin」のままです。 パスワードの変更は、「アカウント」画面で設定します。

- ✓ admin アカウントの TOTP

Init スイッチによる起動	admin アカウントの TOTP は「無効」で起動します。
次回の通常起動	admin アカウントの TOTP は「無効」で起動します。

- ✓ インターフェースの設定

Init スイッチによる起動	インターフェースの設定は、工場出荷設定値を使用します。	
	Ether0	192.168.0.254/24
	Ether1	設定なし
次回の通常起動	インターフェースの設定は、「ネットワーク I/F」の設定値を使用します。	

- ✓ その他の設定

Init スイッチによる起動	その他の設定（テナントデータ等）に、変更はありません。
次回の通常起動	その他の設定（テナントデータ等）に、変更はありません。

2.2.2. 本装置の停止（正常終了・強制終了）

- 正常終了

- 本装置の稼働中に、前面の「Power スイッチ」を短時間押すと、シャットダウン処理を開始します。
- シャットダウンが完了すると「Power LED」が消灯（●）します。

- 強制終了

- 本装置の稼働中に、前面の「Power スイッチ」を4秒以上押すと、強制終了します。
- システムが停止すると「Power LED」が消灯（●）します。

※ シャットダウン処理を実施しないため、本装置がハングアップした時などの非常時のみに実行するようにしてください。

2.2.3. USBフラッシュメモリの接続・取り外し

- USBフラッシュメモリの接続

- USBポートに、USBフラッシュメモリを接続します。
- USB LEDが、消灯（●）→点灯（●）します。

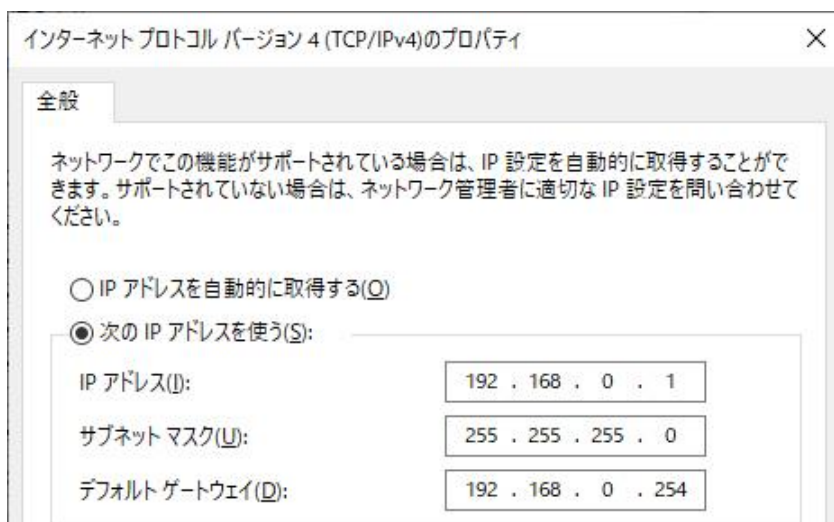
- USBフラッシュメモリの取り外し

- USBスイッチを押下します。
- USB LEDが、点灯（●）→消灯（●）します。
- USBフラッシュメモリを安全に取り外すことができます。

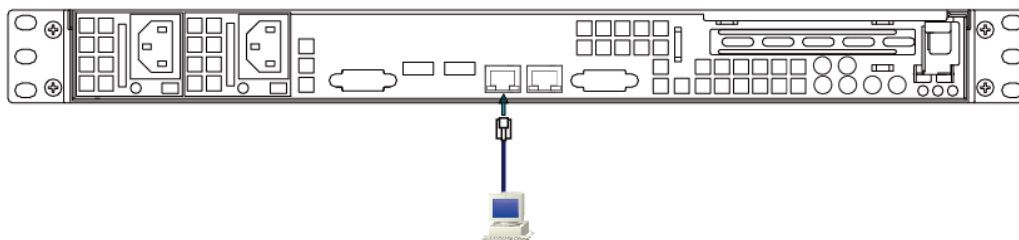
3. ログイン

3.1. 本装置へのログイン方法

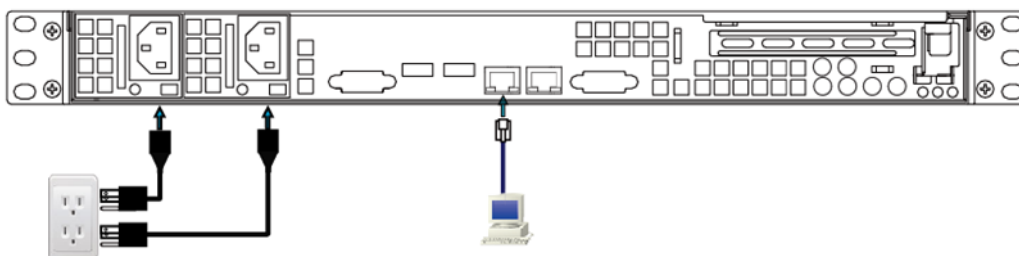
- ① PC の IP アドレスとサブネットマスクを以下のように設定します。



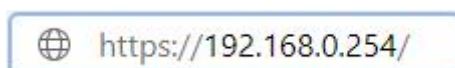
- ② 本装置の Ether 0 ポートと PC を LAN ケーブルで接続します。



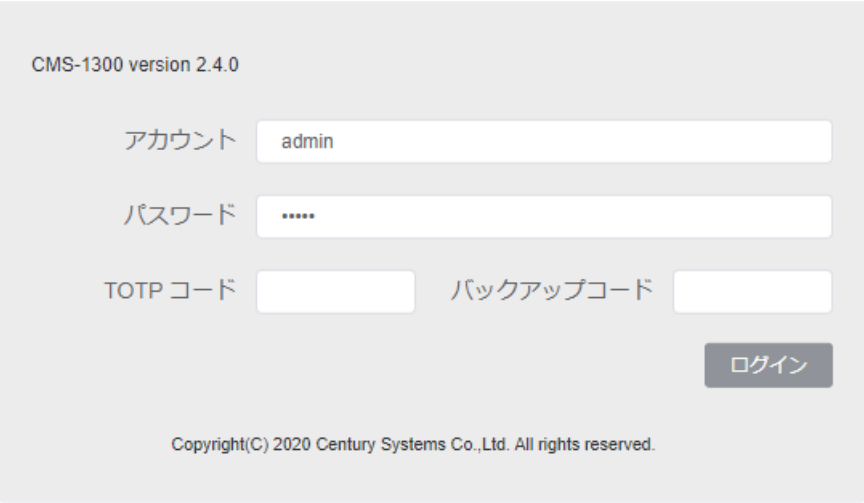
- ③ 本装置と電源ケーブル、電源ケーブルとコンセントを接続します。
通電開始から 30 秒以上経過した後、前面の Power スイッチを押して本装置を起動します。前面の Power LED が点灯 (●) します。
本装置の起動が完了すると、前面の System LED が点灯 (●) します。



- ④ PC の Web ブラウザを開いて、アドレスバーに次のように入力します。



- ⑤ ログイン画面が表示されます。
アカウント (admin) とパスワード (admin) を入力して「ログイン」をクリックします。



CMS-1300 version 2.4.0

アカウント

パスワード

TOTP コード

バックアップコード

Copyright(C) 2020 Century Systems Co.,Ltd. All rights reserved.

- ⑥ ログインに成功すると、以下の画面が表示されます。



FutureNet **CMS-1300**
Central Management Server

テナント: admin | アカウント: admin | ログアウト

システム | テナント | 機器一覧 | ログ | アカウント

システム情報

システム基本設定

システム名称:

CMS アドレス:

システム状態

シリアル番号: 10880000003

バージョン: Century Systems CMS-1300 Series ver 2.4.0 (build 2/Feb 18 11:17 2021)

loadavg: 0.00, 0.00, 0.00

uptime: 2日 2時間52分15秒

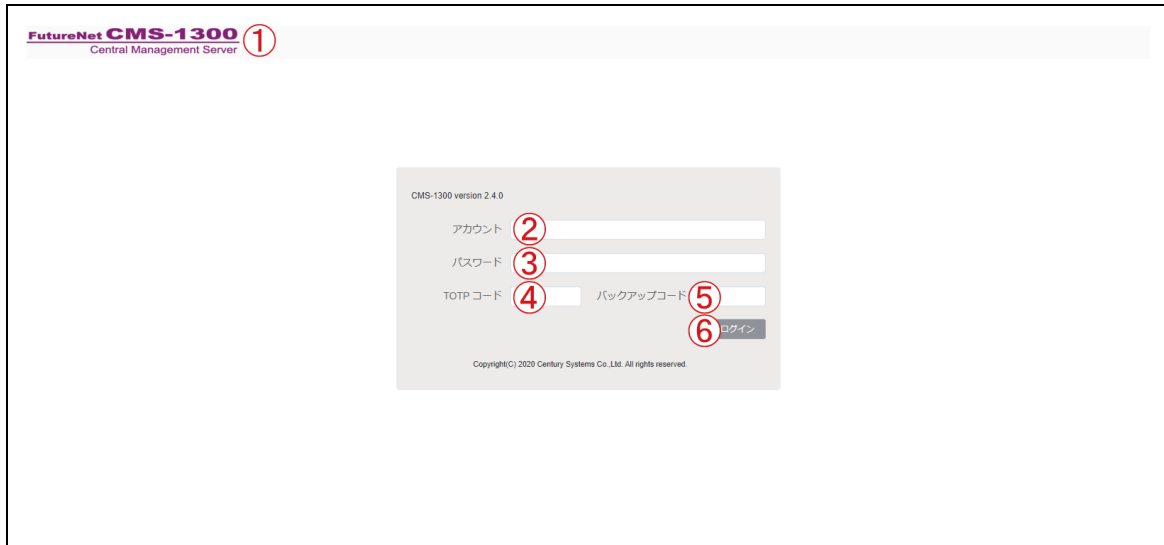
メモリ使用量:

電源: OK

分類	日時	発行元	対象	イベント
情報	2021-03-05 13:25:04	アカウント:admin	CMS	ログイン(192.168.0.1)

以上で、本装置へのログインは完了です。

3.2. ログイン画面



① 「ロゴ画像」

本装置のロゴ画像を表示します。

② 「アカウント」

アカウントを入力します。

③ 「パスワード」

パスワードを入力します。

④ 「TOTPコード」

TOTP有効時、TOTPコードを入力します。

※ TOTP認証アプリケーションに表示された数字をTOTPコードと呼びます。

※ TOTPコードを入力した場合、バックアップコードは入力しません。

⑤ 「バックアップコード」

TOTP有効時、バックアップコードを入力します。

※ バックアップコードを入力した場合、TOTPコードは入力しません。

⑥ 「ログイン」

TOTP無効時、アカウントとパスワードの入力後に、「ログイン」をクリックします。

TOTP有効時、アカウントとパスワードの入力後に、TOTPコードまたはバックアップコードを入力して、「ログイン」をクリックします。

3.2.1. ログイン成功

ログインに成功すると、下記の画面が表示されます。

The screenshot shows the FutureNet CMS-1300 Central Management Server interface. At the top, there are navigation tabs: システム (System), テナント (Tenant), ログ (Log), and アカウント (Account). The 'テナント' tab is selected, and a dropdown menu shows 'admin'. To the right, the 'アカウント: admin' is displayed, and a 'ログアウト' (Logout) button is visible. The main content area is divided into two columns. The left column contains system information, including 'システム基本設定' (System Basic Settings) with fields for 'システム名称' (System Name) and 'CMS アドレス' (CMS Address), and a '変更' (Change) button. The right column shows 'システム状態' (System Status) with details like 'シリアル番号' (Serial Number), 'バージョン' (Version), 'loadavg', 'uptime', 'メモリ使用量' (Memory Usage), and '電源' (Power). Below this, a table displays tenant events. The table has columns for '分類' (Category), '日時' (Date/Time), '実行元' (Origin), '対象' (Target), and 'イベント' (Event). One event is listed: '情報' (Information) at '2021-03-09 11:51:14' from 'アカウント:admin' to 'CMS', with the event 'ログイン(192.168.0.1)'. A red box highlights the event log table, and a circled '5' is placed below it.

① 「メインタブ」

「システム」、「ログ」、「アカウント」タブを表示します。

② 「テナント」

admin アカウントでログインした場合にのみ表示されます。

操作・監視を行うテナントをプルダウンから選択します。表示ラベルはテナント名称です。テナント名称が未設定の場合は、テナントコードを表示します。

③ 「アカウント」

現在ログイン中のアカウントを表示します。

④ 「ログアウト」

ログアウトします。セッションを終了して、ログイン画面に戻ります。

⑤ 「テナントイベントログ」

テナントについて発生したイベントを表示します。

直近の 30 件を表示します。

3.2.1.1. セッション

ログインすると、CMS とクライアント（ブラウザ）間で、セッションを開始します。

ログアウトをクリックすると、セッションを終了してログアウトします。

同じアカウントで、二重ログインすることはできません。

● セッションポーリング

セッション接続中（ログイン中）、クライアント（ブラウザ）は、CMS を 3 秒ごとにポーリングします。

● 無通信タイムアウト

クライアント（ブラウザ）からのポーリングが 1 分以上途絶えた場合、CMS は当該セッションを終了します。

ログアウトしないでブラウザを終了した場合、無通信タイムアウトが確定するまで、当該アカウントでのログインは出来ません。

3.2.2. ログイン失敗

ログインに失敗した場合は、ログイン失敗ダイアログを表示します。



- ログイン失敗時のメッセージと、原因および対応方法について示します。

メッセージ	ログインに失敗しました。
原因および対応方法	アカウントが存在しない場合や、アカウントに対するパスワードが間違っている場合などに表示されます。 アカウント、またはアカウントに対するパスワードを確認してください。

メッセージ	すでにログインしているアカウントがあります。
原因および対応方法	アカウントに対するセッションが、すでに開始されています。 すでにログインしているアカウントがないか確認してください。 同じアカウントで、二重ログインすることは出来ません。 ブラウザを閉じて終了した場合は、しばらく（60 秒以上）待ってからログインしてください。

メッセージ	アカウントがロックされています。
原因および対応方法	パスワード不一致などにより、10 回連続でログインに失敗した場合に表示されます。 30 分間ログイン出来ません。30 分以上経過してから、ログインしてください。

メッセージ	TOTP コードが正しくありません。
原因および対応方法	TOTP コードが間違っています。 TOTP コードを正しく入力してください。

メッセージ	この TOTP コードは使用済みです。
原因および対応方法	この TOTP コードは使用済みです。 最新の TOTP コードを入力してください。

メッセージ	バックアップコードが正しくありません。
原因および対応方法	バックアップコードが間違っています。 バックアップコードを正しく入力してください。

メッセージ	このバックアップコードは使用済みです。
原因および対応方法	このバックアップコードは使用済みです。 未使用のバックアップコードを入力してください。

メッセージ	TOTP コードかバックアップコードのいずれかを入力してください。
原因および対応方法	TOTP 有効時、TOTP コードとバックアップコードの両方が入力された場合、または、どちらも入力されていない場合に表示されます。 TOTP コード、またはバックアップコードのいずれかを入力してください。

メッセージ	TOTP が無効になっています。
原因および対応方法	TOTP 無効時、TOTP コード、またはバックアップコードのいずれが入力された場合に表示されます。 TOTP コード、またはバックアップコードの入力は不要です。

メッセージ	バージョンが一致していません。 ブラウザを閉じるか、再読み込みしてください。
原因および対応方法	バージョンが一致していません。 ブラウザを閉じるか、再読み込みしてください。

4. 画面仕様

4.1. システム

「システム」をクリックすると表示されます。



① 「システム設定メニュー」

システム設定用のメニューです。

admin アカウントでログインした場合にのみ表示します。

② 「タイトル」

当該メニューのタイトルを表示します。

③ 「コンテンツ」

当該メニューのコンテンツを表示します。

4.1.1. システム情報

「システム」→「システム情報」をクリックすると表示されます。



4.1.1.1. システム基本設定

システムの基本設定を行います。

システム基本設定	
システム名称 :	<input type="text" value="CMS-1300"/>
CMS アドレス :	<input type="text"/>
	<input type="button" value="変更"/>

システム名称	本装置のシステムの名称を入力します。
CMS アドレス	CMS の IP アドレス、または FQDN を入力します。 (管理対象機器からの接続先 IP アドレス、または FQDN を入力します。)
変更	システム名称、CMS アドレスの内容を保存します。

4.1.1.2. システム状態

現在のシステムの状態を示します。

	
ファームウェア更新	CMS のファームウェアを更新します。 次項を参照してください。
再起動	CMS を再起動します。 次項を参照してください。
停止	CMS を停止します。 次項を参照してください。

- CMS のファームウェア更新

ファームウェア更新

「ファームウェア更新」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

×

CMSファームウェアアップロード

* ファイル 選択されていません

「ファイルを選択」をクリックして、ファームウェアを指定します。

×

CMSファームウェアアップロード

* ファイル cms1300-v210.bin

「登録」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

ファームウェアのアップロードが完了しました。

現在のファームウェアのバージョン
Century Systems CMS-1300 Series ver

アップロードされたファームウェアのバージョン
Century Systems CMS-1300 Series ver 2.1.0

ファームウェアのアップデートを実行します。
よろしいですか？

「OK」をクリックすると、ファームウェアのアップデートを開始します

- CMS の再起動

再起動

「再起動」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

CMSを再起動しますか？

「OK」をクリックすると、CMS の再起動を開始します。

- CMS の停止

停止

「停止」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

CMSを停止しますか？

「OK」をクリックすると、下の確認画面が表示されます。

本当にCMSを停止してもよろしいですか？

CMS停止後はアクセスできません。
再度使用する場合は、電源ボタンの操作が必要です。

「OK」をクリックすると、CMS を停止します。

4.1.1.3. 内部ストレージ情報

「状態」をクリックすると、ストレージ状態を表示します。



ストレージ状態 ①		
ストレージ状態 (RAID 状態、およびスペア状態) を表示します。 RAID 状態が REBUILDING の場合は、状態と共に進捗率 (%) を表示します。		
RAID状態： OK スペア状態： OK		
RAID 状態	OK	正常
	REBUILDING	再構築中
	DEGRADED	冗長性のない状態
	FAULT	故障・異常
スペア状態	OK	正常
	NONE	ディスクなし

ストレージ状態 ②		
ストレージ状態 (各ディスクの状態) を表示します。		
ディスク0状態： OK (raid) ディスク1状態： OK (raid) ディスク2状態： OK (spare)		
ディスク 0 状態 ディスク 1 状態 ディスク 2 状態	OK (raid)	正常 (raid)
	OK (raid-rebuilding)	正常 (raid 再構築中)
	OK (spare)	正常 (spare)
	OK (-)	正常 (無属性)
	UNKNOWN	不明
	FAULT (-)	故障・異常 (無属性)
	FAULT (raid)	故障・異常 (raid)
	NOT-PRESENT	ディスクが認識されていない
ディスク状態の () 内は、属性を表します。 (raid) raid に属している状態 (spare) spare に属している状態 (-) 無属性 (raid にも、spare にも属していない状態)		

ストレージ状態 ③

内部ディスクを操作するための UI です。

ディスク番号

- スペアを作成する場合は、ディスク番号を指定して「**スペア作成**」をクリックします。
- CMS からディスクを取り外す場合は、ディスク番号を指定して「**ディスク削除**」をクリックします。

ストレージ状態 ④

ストレージ使用率 (%) を表示します。HDD の容量は表示しません。

S.M.A.R.T 情報(ディスク 0, 1, 2) ⑤

各ディスクについて、S.M.A.R.T (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology) 情報を表示することができます。

状態 [S.M.A.R.T情報 \(ディスク0\)](#) [S.M.A.R.T情報 \(ディスク1\)](#) [S.M.A.R.T情報 \(ディスク2\)](#)

```
disk:0 smart information.
SMART Attributes Data Structure revision number: 16
Vendor Specific SMART Attributes with Thresholds:
```

ID#	ATTRIBUTE_NAME	FLAG	VALUE	WORST	THRESH	TYPE	UPDATED	WHEN_FAILED	RAW_VALUE
1	Raw_Read_Error_Rate	0x000b	100	100	016	Pre-fail	Always	-	0
2	Throughput_Performance	0x0005	132	132	054	Pre-fail	Offline	-	101
3	Spin_Up_Time	0x0007	100	100	024	Pre-fail	Always	-	0
4	Start_Stop_Count	0x0012	100	100	000	Old_age	Always	-	7
5	Reallocated_Sector_Ct	0x0033	100	100	005	Pre-fail	Always	-	0
7	Seek_Error_Rate	0x000b	100	100	067	Pre-fail	Always	-	0
8	Seek_Time_Performance	0x0005	128	128	020	Pre-fail	Offline	-	18
9	Power_On_Hours	0x0012	100	100	000	Old_age	Always	-	820
10	Spin_Retry_Count	0x0013	100	100	060	Pre-fail	Always	-	0

4.1.1.3.1. HDD の交換手順

本体 HDD ストレージの交換手順について示します。

「ディスク異常の確認」→「ディスク削除」→「HDD の交換」→「スペア作成」の順に実行します。

- ディスク異常の確認

正常な状態

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: OK			
スペア状態: OK			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: OK (raid)			
ディスク2状態: OK (spare)			

ディスク 1 に異常が発生した状態 (ディスク 1 状態: **FAULT(raid)**)

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: REBUILDING (0%)			
スペア状態: NONE			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: FAULT (raid)			
ディスク2状態: OK (raid-rebuilding)			

※ スペアを利用して、自動的に REBUILDING を開始します。

ディスク 2 状態: **OK(spare) → OK(raid-rebuilding)**

※ REBUILDING 中は、HDD の交換 (ディスク削除) が出来ません。

HDD の交換 (ディスク削除) は、REBUILDING が完了してから行ってください。

※ REBUILDING が完了するまでに、長時間 (13 時間以上) が必要です。

REBUILDING が完了した状態 (RAID 状態が「OK」になっていることを確認します。)

状態	S.M.A.R.T情報 (ディスク0)	S.M.A.R.T情報 (ディスク1)	S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
ストレージ状態			
RAID状態: OK			
スペア状態: NONE			
ディスク0状態: OK (raid)			
ディスク1状態: FAULT (raid)			
ディスク2状態: OK (raid)			

- ディスク削除

- ① ストレージ状態から、異常ディスクを特定します。
- ② 「ディスク番号」を指定します。
- ③ 「ディスク削除」をクリックします。



以下の画面が表示されます。

ポート1のディスクを削除しますか？

キャンセル

OK

「OK」をクリックすると、ディスクを削除します。

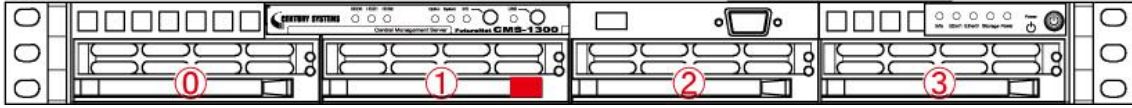
- ④ ディスク状態が、**FAULT(-)**になっていることを確認します。



※ CMS から HDD を取り外す前に、必ず「ディスク削除」を実行してください。

- HDD の交換

- 当該ディスクの物理ポートを確認した上で、HDD を CMS から外します。
- ※ ディスク 1 は、番号①の HDD ベイに相当します。赤いボタンを押すと、物理的なロックが外れます。



- 新しい HDD を CMS に装着します。
- ※ 弊社指定の HDD を使用してください。
- ※ 一度 CMS に装着して (raid) / (spare) に設定した HDD は、内部に当該情報が残るため、CMS で再使用しないでください。

- スペア作成

- ① ディスク状態が、**OK(-)**であることを確認します。
- ② 「ディスク番号」を選択して「スペア作成」をクリックします。

The screenshot shows a RAID configuration page with the following details:

- 状態: S.M.A.R.T情報 (ディスク0), S.M.A.R.T情報 (ディスク1), S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
- ストレージ状態
 - RAID状態: OK
 - スペア状態: NONE
- ディスク0状態: OK (raid)
- ディスク1状態: **①** OK (-)
- ディスク2状態: OK (raid)

At the bottom, there is a "ディスク番号" dropdown menu with "1" selected and a red circle around it labeled "②". To the right are buttons for "スペア作成" and "ディスク削除".

※ CMS に (spare) が存在している場合は、新たにスペアを作成することは出来ません。
(spare) が存在しない状態で、「スペア作成」を実行してください。

HDD 構成が「(raid) 2 台」 + 「(spare) 1 台」になっていることを確認します。

The screenshot shows the RAID configuration page after a spare disk has been added:

- 状態: S.M.A.R.T情報 (ディスク0), S.M.A.R.T情報 (ディスク1), S.M.A.R.T情報 (ディスク2)
- ストレージ状態
 - RAID状態: OK
 - スペア状態: OK
- ディスク0状態: OK (raid)
- ディスク1状態: OK (spare)
- ディスク2状態: OK (raid)

The "ディスク番号" dropdown menu now shows "1" with a downward arrow. The "スペア作成" button is now disabled (greyed out).

4.1.1.3.2. HDD の復旧手順

本体 HDD ストレージの交換後、ディスク状態が通常と異なる場合の復旧手順について示します。

- ディスク状態「UNKNOWN」
ディスク状態が「UNKNOWN」と表示された場合は、以下の手順を実行します。
復旧した場合（ディスク状態が「OK」の場合）は当該手順で終了します。
復旧しない場合は次の手順を実行します。

①	「システム」→「システム情報」をクリックして、内部ストレージ情報を更新します。
②	①の操作を複数回実行します。
③	<ul style="list-style-type: none">• 当該ディスクを選択して「ディスク削除」を実行します。• CMS から当該 HDD を外します。• 当該 HDD を再度 CMS に装着します。• 「システム」→「システム情報」をクリックして、内部ストレージ情報を更新します。
④	③の操作を複数回実行します。
⑤	CMS を再起動します。

- ディスク状態「(spare) 2 台」
ディスク状態に (spare) が 2 台表示された場合の対処方法を示します。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">• 時間が経過すると、2 台の (spare) のうち 1 台が REBUILDING を開始します。REBUILDING が完了すると、「(raid) 2 台」+「(spare) 1 台」の構成になります。• しばらく待っても状態が変わらなければ、「ディスク削除」の実行や HDD の取り外しを行ってください。 |
|---|

※ 元の状態が (spare) の HDD を CMS に装着すると、(spare) が 2 台になる場合があります。

4.1.2. ネットワーク I/F

「システム」 → 「ネットワーク I/F」 をクリックすると表示されます。



The screenshot shows a web interface for network interface configuration. At the top, there is a dropdown menu (1) currently set to 'eth0'. To its right are three buttons: '情報表示' (2), 'インターフェース再起動' (3), and '項目追加' (4). Below these is a table with columns for '項目' (Item), '値' (Value), and actions. The table has three rows: 'アドレス' (Address) with value '192.168.0.254/24' (5), and 'MTU' with value '1500'. The '項目' column has a dropdown menu (6) with options '全体表示', 'eth0', and 'eth1'. To the right of the table are two columns of edit/delete buttons (7).

項目	値		
アドレス	192.168.0.254/24		
MTU	1500		

① 「インターフェースの選択」
インターフェースをプルダウンから選択します。

② 「情報表示」
クリックすると、インターフェース情報を表示します。

③ 「インターフェース再起動」
クリックすると、選択しているインターフェースの再起動を行います。
インターフェース再起動を実行すると、変更内容が反映されます。

④ 「項目追加」
クリックすると、インターフェースに設定項目を追加します。
項目の種別は、アドレス、インターフェース ID、ルーティング、MTU です。

⑤ 「項目一覧」
現在設定されている項目の一覧を表示します。

⑥ 「編集」
「編集」をクリックすると、項目を編集することが出来ます。

⑦ 「削除」
「削除」をクリックすると、項目を削除します。

4.1.2.1. 項目追加



eth1 [情報表示] [インターフェース再起動] [項目追加]

インターフェース (eth0/eth1) を選択して「項目追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

インターフェース設定 (eth1)

*項目: アドレス

*アドレス: アドレス
インターフェースID
ルーティング
MTU

[キャンセル] [登録]

プルダウンから、項目を選択します。

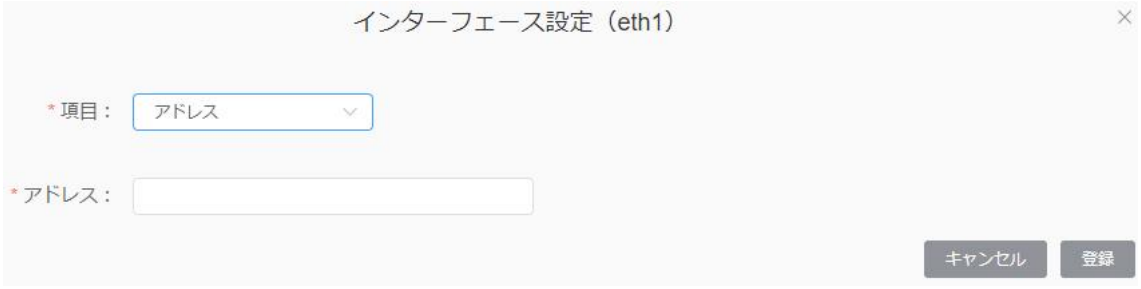
- アドレス
- インターフェース ID
- ルーティング
- MTU

4.1.2.1.1. 項目：アドレス

指定インターフェースに、IP アドレスを設定します。

IPv4 アドレスは、1 つだけ設定することができます。

IPv6 アドレスは、複数設定することができます。



インターフェース設定 (eth1)

*項目: アドレス

*アドレス:

キャンセル 登録

アドレス

インターフェースに IP アドレスを設定します。

IP アドレスとプレフィクス長を指定します。

IPv4 アドレスの設定例： 192.168.0.1/24

IPv6 アドレスの設定例： 2001::1/64

IPv4 DHCP でアドレスを取得する場合は、「dhcp」を指定します。

「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。

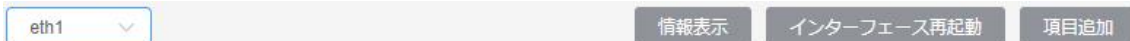
「登録」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

OK

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。



eth1

情報表示 インターフェース再起動 項目追加

4.1.2.1.2. 項目：インターフェース ID

指定インターフェースに、インターフェース ID を設定します。

インターフェース設定 (eth1) ×

*項目: インターフェースID ▼

*インターフェースID:

キャンセル 登録

インターフェースID	IPv6 アドレスのインターフェースIDを指定します。
「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。	
「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。	

↑

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

OK

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。

eth1 ▼ 情報表示 インターフェース再起動 項目追加

4.1.2.1.3. 項目：ルーティング

指定インターフェースに、ルーティングを設定します。

ルーティングは複数指定可能です。

インターフェース設定 (eth1) ×

* 項目:

* 宛先:

* ゲートウェイ:

宛先	宛先ネットワーク（またはホスト）を、プレフィックス長と共に指定します。
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを指定します。

「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。

「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。

↑

インターフェースを設定しました。

変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。

設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。

eth1

以下に、設定例を示します。

IPv4 net ルート	宛先	192.168.100.0/24
	ゲートウェイ	192.168.1.1
IPv4 デフォルトルート	宛先	0.0.0.0/0
	ゲートウェイ	192.168.1.2
IPv6 デフォルトルート	宛先	::/0
	ゲートウェイ	2020::1

4.1.2.1.4. 項目 : MTU

指定インターフェースに、MTU を設定します。

インターフェース設定 (eth1)	
* 項目 :	MTU
* MTU :	1500
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="登録"/>	
MTU	インターフェースMTU値を指定します。 最小値は 128、最大値は 1500 です。
「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。	
「登録」をクリックすると、入力内容をCMSに登録して、以下のダイアログを表示します。	
<p>↑</p> <p>インターフェースを設定しました。 変更を反映するには「インターフェース再起動」を行ってください。</p> <p><input type="button" value="OK"/></p>	
設定を反映するには、「インターフェース再起動」を実行します。	
eth1	<input type="button" value="情報表示"/> <input type="button" value="インターフェース再起動"/> <input type="button" value="項目追加"/>

4.1.3. DNSサーバ

「システム」 → 「DNS サーバ」 をクリックすると表示されます。

4.1.3.1. DNSサーバアドレス設定

DNS サーバアドレスを設定します。

<p>DNSサーバアドレス設定</p> <p>DNSサーバアドレス1 : <input type="text" value="192.168.100.50"/></p> <p>DNSサーバアドレス2 : <input type="text" value="8.8.8.8"/></p> <p>DNSサーバアドレス3 : <input type="text" value="1.1.1.1"/></p> <p>DNSサーバアドレス4 : <input type="text" value="9.9.9.9"/></p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="変更"/></p>	
<p>DNS サーバアドレス 1</p> <p>DNS サーバアドレス 2</p> <p>DNS サーバアドレス 3</p> <p>DNS サーバアドレス 4</p>	<p>DNS サーバアドレスを4つまで指定できます。</p> <p>IPアドレスを入力します。</p>
<p>「変更」をクリックすると、DNS サーバアドレスをCMSに設定します。</p>	

4.1.3.2. DNS情報

DNS 情報を表示します。

<p>DNS情報</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="更新"/></p> <pre>nameserver 192.168.100.50 nameserver 8.8.8.8 nameserver 1.1.1.1 nameserver 9.9.9.9</pre>
<p>「更新」をクリックすると、DNS情報を更新します。</p>

4.1.4. 時刻設定

「システム」→「時刻設定」をクリックすると表示されます。

4.1.4.1. CMSシステム時刻

CMS のシステム時刻を設定します。

<p>CMSシステム時刻</p> <p>*時刻設定： <input type="text" value="🕒 2020-07-07 12:47 ①"/> <input type="button" value="変更 ②"/></p>	
① 時刻設定	「システム」→「時刻設定」をクリックした時の日時が表示されます。 各コントロールを操作して、日付および時刻を指定します。
② 変更	「変更」をクリックすると、システム時刻を変更します。

4.1.4.2. NTP設定

NTP の設定を行います。

NTP設定

NTPサーバ: 停止 起動

設定1
サーバアドレス:

ポーリング最小値:

ポーリング最大値:

設定2
サーバアドレス:

ポーリング最小値:

ポーリング最大値:

NTPサーバ	NTPサーバの「停止」／「起動」を選択します。
サーバアドレス	サーバアドレスを2つ指定できます。 IPアドレス、またはFQDNを指定します。 FQDNを指定する場合、DNSサーバアドレスの設定が必要です。
ポーリング最小値	4～8の値を指定します。 最小値 < 最大値になるように指定します。
ポーリング最大値	8～12の値を指定します。 最小値 < 最大値になるように指定します。
変更	「変更」をクリックすると、入力内容をCMSに設定します。 NTPの「停止」／「起動」はすぐに反映されます。

1.1.1.1.1. NTP 状態

NTP 状態を表示します。NTP サーバが起動している状態で有効化されます。

NTP状態

```

remote      refid      st t when poll reach  delay  offset jitter
-----
ntp-a2.nict.go. .NICT.    1 u  4 18h  1   2.983  0.114  0.000
    
```


「更新」をクリックすると最新の状態を表示します。

4.1.5. SYSLOG

「システム」 → 「SYSLOG」 をクリックすると表示されます。

4.1.5.1. CMS SYSLOG設定

本装置の SYSLOG サーバの設定を変更します。

	
ローカル設定	「プライオリティ」 ローカルファイルに出力する SYSLOG のプライオリティを指定します。 プルダウンから、「NOTICE」、「INFO」、「DEBUG」を選択します。
転送設定	「SYSLOG転送」 「転送しない」または「転送する」を選択します。 「転送する」を選択した場合、CMS が出力する SYSLOG を、外部 SYSLOG サーバに転送することができます。
	「転送先サーバ」 IP アドレスまたは FQDN で、転送先サーバを指定します。 FQDN で指定する場合、DNS サーバアドレスの設定が必要です。
	「プライオリティ」 転送する SYSLOG のプライオリティを指定します。 プルダウンから、「NOTICE」、「INFO」、「DEBUG」を選択します。
	「変更」 をクリックすると、入力内容を CMS に設定します。 SYSLOG サーバが再起動し、変更が反映されます。

4.1.5.2. CMS SYSLOGファイル

<p>CMS SYSLOGファイル</p> <p>ダウンロード</p>	
ダウンロード	「ダウンロード」をクリックすると、CMS がローカルファイルに出力している SYSLOG を、PC にダウンロードすることができます。

4.1.6. SNMP

「システム」 → 「SNMP」 をクリックすると表示されます。

4.1.6.1. SNMPエージェント設定

SNMP エージェントの設定を行います。

SNMPエージェント設定	
SNMPサーバ: <input checked="" type="radio"/> 停止 <input type="radio"/> 起動	
location: <input type="text"/>	
contact: <input type="text"/>	
name: <input type="text"/>	
SNMPマネージャ 1: <input type="text"/>	コミュニティ名 1: <input type="text"/>
SNMPマネージャ 2: <input type="text"/>	コミュニティ名 2: <input type="text"/>
SNMPマネージャ 3: <input type="text"/>	コミュニティ名 3: <input type="text"/>
<input type="button" value="変更"/>	
SNMP サーバ	SNMP サーバの「停止」／「起動」を選択します。
location	「location」を指定します。255 文字まで設定可能です。
contact	「contact」を指定します。255 文字まで設定可能です。
name	「name」を指定します。255 文字まで設定可能です。
SNMP マネージャ 1 SNMP マネージャ 2 SNMP マネージャ 3	SNMP マネージャを使用するネットワークアドレスを指定します。 ネットワークアドレスは、3 つまで指定することができます。 以下のネットワークアドレスを指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> IPv4 アドレス、IPv4 ネットワークアドレス IPv6 アドレス、IPv6 ネットワークアドレス ※ SNMP マネージャを設定する場合は、対応するコミュニティ名も設定してください。片方だけを設定することはできません。
コミュニティ名 1 コミュニティ名 2 コミュニティ名 3	SNMP マネージャに対応するコミュニティ名を指定します。 255 文字まで設定可能です。
変更	「変更」をクリックすると、入力内容が反映されます。

4.1.7. テナント

「システム」→「テナント」をクリックすると表示されます。

テナントの追加、削除および編集を行うことができます。

		① テナントデータのインポート	② テナントの追加
テナントコード	名称		
century	century	④	⑤
sample	sample	③	

① 「テナントデータのインポート」
CMS に、テナントデータをインポートします。
CMS を初期化後、テナントデータをインポートする場合、あるいは異なる CMS 間でテナントデータを移動する場合等に使用します。

② 「テナントの追加」
クリックすると、テナントを追加することができます。
CMS に登録可能なテナント数は、最大 30 個です。

③ 「テナント一覧」
現在 CMS に登録されているテナントの一覧を表示します。

④ 「編集」
「編集」をクリックすると、テナント情報を編集することができます。

⑤ 「削除」
「削除」をクリックすると、テナント情報を削除することができます。

4.1.7.1. テナントデータのインポート

テナントデータのインポート **テナントの追加**

「テナントデータのインポート」をクリックすると、次の画面が表示されます。

テナントデータのインポート ×

*ファイル: 選択されていません

「ファイルを選択」をクリックして、インポートするファイル（テナントデータ）を選択します。

テナントデータのインポート ×

*ファイル: test1_config_hdd.dat

「登録」をクリックすると、次の画面が表示されます。

×

指定ファイル内容は以下のとおりです。
間違いなければ[OK]を押してインポートを開始してください。

テナントコード : century
バックアップ日時 : 2020-07-07 17:42:44
機器数 : 0

表示されているメッセージ内容を確認して、インポートする／しないを判断します。
「OK」をクリックすると、テナントデータのインポートを開始します。

4.1.7.2. テナントの追加

<input type="button" value="テナントデータのインポート"/> <input type="button" value="テナントの追加"/>	
<p>「テナントの追加」をクリックすると、次の画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid #ccc; margin-bottom: 10px;"> テナント追加 × </div> <p>*テナントコード: <input type="text"/></p> <p>名称: <input type="text"/></p> <p>*アカウント: <input type="text"/></p> <p>*パスワード: <input type="text"/></p> <p>*機器最大数: <input type="button" value="-"/> 256 <input type="button" value="+"/> </p> <p>備考: <input type="text"/></p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="登録"/> </div> </div>	
テナントコード	テナントを識別するための文字列を指定します。 同一 CMS 内での重複はできません。
名称	テナントの名称を指定します。
アカウント	テナントに対して発行するアカウントを指定します。 ※ 第三者に推測されにくいアカウント名を推奨します。 CMS へのログイン時に使用します。 同一 CMS 内での重複はできません。
パスワード	アカウントに対するパスワードを指定します。 CMS へのログイン時に使用します。
機器最大数	当該テナントに登録できる機器の最大数を（1～2048 の範囲で）指定します。
備考	備考欄です。文字列を入力します。
キャンセル	入力内容を破棄します。
登録	入力内容を CMS へ登録します。 テナントコードやアカウントの重複がある場合は、エラーダイアログが表示されます。
<p>※ 全テナントの機器最大数の合計が、CMSの機器最大数（10,000）を超える場合は、注意が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #f0f0f0;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">注意：設定されたテナントの機器最大数の合計（10752）が、機器の設定可能上限数を超えています。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <input type="button" value="テナントデータのインポート"/> <input type="button" value="テナントの追加"/> </div>	

4.1.7.3. テナントの編集

テナントコード ◯	名称 ◯	
century	century	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="戻る"/>

「編集」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

テナント情報
テナント情報の現在の設定値が表示されます。
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"><p>テナント情報</p><p>テナントコード: century</p><p>名称: <input type="text" value="century"/></p><p>* 機器最大数: <input type="button" value="-"/> 256 <input type="button" value="+"/> <input type="text"/></p><p>備考: <input type="text"/></p><p style="text-align: right;"><input type="button" value="変更"/></p></div>
テナント情報の設定を変更することができます。 ただし、テナントコードは、変更できません。 「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。

4.1.7.4. テナントの削除

テナントコード	名称
century	century

「削除」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

テナント[century]を削除しますか？

キャンセル OK

「OK」をクリックすると、当該テナントを削除します。

4.1.8. アカウント

「システム」→「アカウント」をクリックすると表示されます。

種別	アカウント名	テナントコード	備考	ログイン時刻	
admin	admin	-	Administrator	2021-03-03 10:33:33	<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="白"/>
テナント	cmstest	cmstest		-	<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="白"/>

4.1.8.1. アカウントの追加

テナントアカウントを追加します。

※ テナント当たり、最大 5 アカウントまで登録することが出来ます。

※ システム全体で、最大 150 アカウントまで登録することが出来ます。

種別	テナントを選択します。
アカウント	テナントに対して発行するアカウントを指定します。 ※ 第三者に推測されにくいアカウント名を推奨します。 CMS へのログイン時に使用します。 同一 CMS 内での重複はできません。
テナントコード	プルダウンから選択します。
パスワード	アカウントに対するパスワードを指定します。 CMS へのログイン時に使用します。
備考	備考欄です。文字列を入力します。

「登録」をクリックすると、アカウントが登録されます。
「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。

4.1.8.2. アカウントの編集

テナントアカウントを編集します。

The screenshot shows a web browser window with the following elements:

- Browser tabs: テナント, cmstestaccount1, cmstest, account1. A red box highlights the 'cmstest' tab.
- Text above the modal: 「編集」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
- Modal title: アカウント設定 (Account Settings)
- Account information: アカウント : cmstestaccount1
- Navigation tabs: パスワード (selected), 情報, 多要素認証
- Form field: *パスワード: [input field]
- Buttons: キャンセル (Cancel), 登録 (Register)

パスワード	
「パスワード」をクリックすると表示されます。	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>パスワード 情報 多要素認証</p> <hr/> <p>*パスワード: <input type="password"/></p> <p style="text-align: right;"> キャンセル 登録 </p> </div>	
パスワード	<p>ログインパスワードを変更することができます。</p> <p>アカウントがロックされた状態でパスワードを変更すると、当該アカウントのロックを解除します。</p> <p>アカウントロックを判定するためのカウンタ（ログイン失敗の連続回数を記録するカウンタ）もゼロにクリアします。</p> <p>「登録」をクリックすると、入力内容を登録します。</p> <p>「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。</p>

情報	
「情報」をクリックすると表示されます。	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>パスワード <u>情報</u> 多要素認証</p> <hr/> <p>備考: <input type="text" value="account1"/></p> <p style="text-align: right;"> キャンセル 登録 </p> </div>	
備考	<p>備考を編集することができます。</p> <p>「登録」をクリックすると、入力内容を登録します。</p> <p>「キャンセル」をクリックすると、入力内容を破棄します。</p>

多要素認証	
「多要素認証」をクリックすると表示されます。	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>パスワード 情報 <u>多要素認証</u></p> <hr/> <p style="text-align: right;">TOTP 無効</p> </div>	
<p>TOTP 認証を無効にすることができます。</p> <p>「TOTP 無効」をクリックします。</p>	

4.1.8.3. アカウントの削除

テナントアカウントを削除します。

テナント > cmstestaccount1 > cmstest > account1

「削除」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

アカウント[cmstestaccount1]を削除しますか？

キャンセル OK

「OK」をクリックすると、当該アカウントを削除します。

アカウント[cmstestaccount1]を削除しました。

OK

※ テナントアカウントが一つだけの場合は、以下の画面が表示されます（アカウントを削除することが出来ません）。

設定できませんでした。

メッセージ：テナントに少なくとも1個のテナントアカウントが必要です。これ以上テナントアカウントを削除できません。

OK

4.1.9. システムデータ

「システム」→「システムデータ」をクリックすると表示されます。

4.1.9.1. システムデータの退避と復帰

CMS に設定・登録したデータ（システムデータ）を、退避・復帰・ダウンロード・アップロードすることが可能です。システムデータにログファイル等は含まれません。



- 全体と最小の違い

本体 HDD ストレージ (全体) 本体 USB ストレージ (全体)	CMS のシステム全体データを表します。 システム全体の設定データです。 ログファイル等を除きます。
本体 HDD ストレージ (最小) 本体 USB ストレージ (最小)	CMS のシステム最小データを表します。 テナントデータ以外のシステムの設定データです。 ログファイル等を除きます。

※ システム全体データ（全体）とシステム最小データ（最小）の関係は次のとおりです。
システム全体データ＝システム最小データ＋（すべての）テナントデータ

4.1.9.1.1. 本体 HDD ストレージ (全体)

本体 HDD ストレージ (全体) を使用して、システムデータの退避、復帰、ダウンロード、およびアップロードを行います。

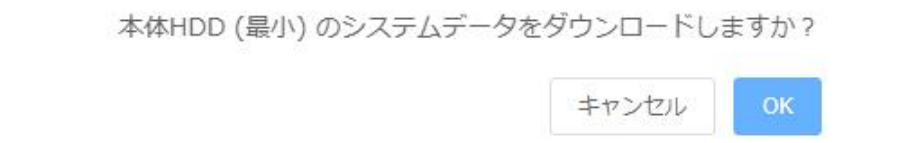
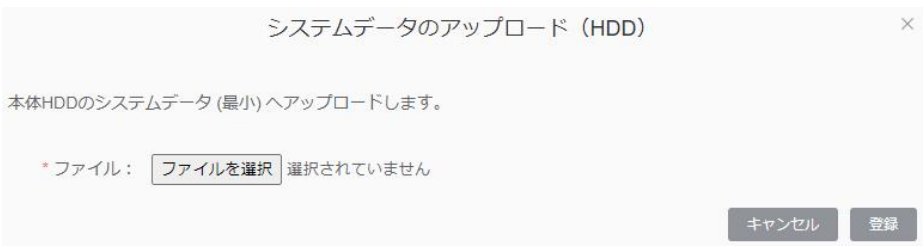
本体HDDストレージ (全体) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/> <input type="button" value="ダウンロード"/> <input type="button" value="アップロード"/>	
退避	<p>「退避」をクリックと、システムデータを本体 HDD (全体) へ退避します。 以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (全体) へ退避しますか？</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「復帰」をクリックすると、システムデータを本体 HDD (全体) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (全体) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体HDD (全体) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (全体) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-10-20 11:01:33 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

<p>ダウンロード</p>	<p>「ダウンロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="text-align: center;"> <p>本体HDD (全体) のシステムデータをダウンロードしますか？</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> キャンセル OK </div> </div> <p>「OK」をクリックすると、本体 HDD (全体) のシステムデータをダウンロードします。</p>
<p>アップロード</p>	<p>「アップロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p style="text-align: center;">システムデータのアップロード (HDD) ×</p> <p>本体HDDのシステムデータ (全体) へアップロードします。</p> <p>*ファイル: ファイルを選択 選択されていません</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> キャンセル 登録 </div> </div> <p>「ファイルを選択」をクリックして、ファイルを指定します。 「登録」をクリックすると、本体 HDD (全体) に、システムデータをアップロードします。</p>

4.1.9.1.2. 本体 HDD ストレージ (最小)

本体 HDD ストレージ (最小) を使用して、システムデータの退避、復帰、ダウンロード、およびアップロードを行います。

本体HDDストレージ (最小) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/> <input type="button" value="ダウンロード"/> <input type="button" value="アップロード"/>	
退避	<p>「退避」をクリックと、システムデータを本体 HDD (最小) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (最小) へ退避しますか?</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「復帰」をクリックすると、システムデータを本体 HDD (最小) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (最小) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体HDD (最小) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体HDD (最小) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-10-20 11:16:32 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

<p>ダウンロード</p>	<p>「ダウンロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="text-align: center;">  <p>本体HDD (最小) のシステムデータをダウンロードしますか？</p> <p>キャンセル OK</p> </div> <p>「OK」をクリックすると、本体 HDD (最小) のシステムデータをダウンロードします。</p>
<p>アップロード</p>	<p>「アップロード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <div style="text-align: center;">  <p>システムデータのアップロード (HDD)</p> <p>×</p> <p>本体HDDのシステムデータ (最小) へアップロードします。</p> <p>* ファイル: <input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません</p> <p>キャンセル 登録</p> </div> <p>「ファイルを選択」をクリックして、ファイルを指定します。</p> <p>「登録」をクリックすると、本体 HDD (最小) に、システムデータをアップロードします。</p>

4.1.9.1.3. 本体 USB ストレージ (全体)

本体 USB ストレージ (全体) を使用して、システムデータの退避、および復帰を行います。

本体USBストレージ (全体) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/>	
退避	<p>「退避」をクリックすると、システムデータを本体 USB (全体) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体USB (全体) へ退避しますか？</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「復帰」をクリックすると、システムデータを本体 USB (全体) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体USB (全体) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体USB (全体) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p style="text-align: center;">システムデータを本体USB (全体) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-10-19 17:36:44 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

4.1.9.1.4. 本体 USB ストレージ (最小)

本体 USB ストレージ (最小) を使用して、システムデータの退避、および復帰を行います。

本体USBストレージ (最小) : <input type="button" value="退避"/> <input type="button" value="復帰"/>	
退避	<p>「退避」をクリックすると、システムデータを本体 USB (最小) へ退避します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (最小) へ退避しますか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータの退避を実行します。</p>
復帰	<p>「復帰」をクリックすると、システムデータを本体 USB (最小) から復帰します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (最小) から復帰します。</p> <p>データの復帰後は、CMSは再起動します。 本体USB (最小) のシステムデータをチェックします。 [OK]を押してください。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを本体USB (最小) から復帰します。</p> <p>このデータは 2020-10-19 18:11:49 に退避されました。 データの復帰後は、CMSは再起動します。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、システムデータを復帰します。</p> <p>※ システムデータの復帰後は、CMS は再起動します。 ※ ログイン中のアカウントは、強制ログアウトします。</p>

4.1.9.2. 初期化（システムデータ・本体USBストレージ）

システムデータ、および本体 USB ストレージを初期化します。

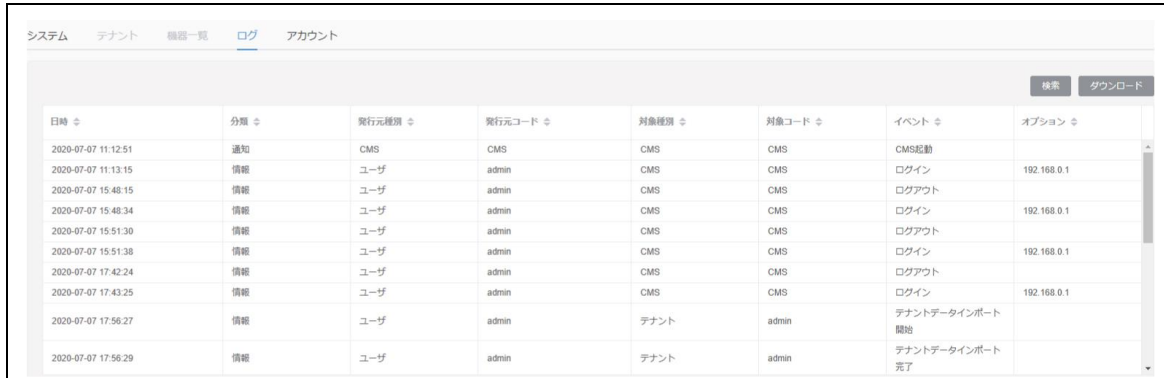
	<p>初期化</p> <p>システムデータ： <input type="button" value="初期化実行"/></p> <p>本体USBストレージ： <input type="button" value="初期化実行"/></p>
システムデータ	<p>「初期化実行」をクリックすると、システムデータを初期化します。以下の画面が表示されます。</p> <p>システムデータを初期化します。 CMSが管理するテナント情報、機器情報がすべて消去されます。 管理者パスワード、ネットワーク設定は出荷時設定に戻ります。 初期化後はCMSは再起動します。</p> <p>本当に初期化を実行してもよろしいですか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、初期化を実行します。</p> <p>※ システムデータを初期化すると、工場出荷状態で起動します。 ※ ログファイル等も消去されます。</p>
本体 USB ストレージ	<p>「初期化実行」をクリックすると、本体 USB ストレージを初期化します。以下の画面が表示されます。</p> <p>本体USBストレージを初期化します。 USB上の情報がすべて消去されます。</p> <p>本当に初期化を実行してもよろしいですか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p> <p>「OK」をクリックすると、初期化を実行します。</p>

4.2. ログ

「ログ」をクリックすると表示されます。



ログの検索結果を（最大 5000 件）表示します。
検索結果はダウンロードすることができます。



日時	分類	実行元種別	実行元コード	対象種別	対象コード	イベント	オプション
2020-07-07 11:12:51	通知	CMS	CMS	CMS	CMS	CMS起動	
2020-07-07 11:13:15	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 15:48:15	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 15:48:34	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 15:51:30	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 15:51:38	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 17:42:24	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログアウト	
2020-07-07 17:43:25	情報	ユーザ	admin	CMS	CMS	ログイン	192.168.0.1
2020-07-07 17:56:27	情報	ユーザ	admin	テナント	admin	テナントデータインポート 開始	
2020-07-07 17:56:29	情報	ユーザ	admin	テナント	admin	テナントデータインポート 完了	

「検索」をクリックすると、ログ検索条件ダイアログを開きます。

「ダウンロード」をクリックすると、検索結果を CSV 形式でダウンロードすることができます。

4.2.1. ログ検索条件ダイアログ

ログ検索条件		×
期間:	<input type="button" value="日"/> 開始 - 終了	
アカウント名:	<input type="text"/>	
テナントコード:	<input type="text"/>	
機器コード:	<input type="text"/>	
グループ名:	<input type="text"/>	
順序:	<input type="button" value="昇順"/> ▼	
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="検索"/>		

「期間」 : 開始 カレンダーボタンを押して、開始日を指定します。 空欄の場合、開始は CMS 内の一番古いログです。
「期間」 : 終了 カレンダーボタンを押して、終了日を指定します。 空欄の場合、終了はCMS内の最新ログです。
「アカウント名」 操作または対象アカウント名を指定します。 空欄の場合、アカウント名による絞込みを行いません。 入力できる文字数は最大 16 文字です。
「テナントコード」 対象機器の機器コードを指定します。 空欄の場合、テナントコードによる絞込みを行いません。 入力できる文字数は最大 16 文字です。
「機器コード」 対象機器の機器コードを指定します。 空欄の場合、機器コードによる絞込みを行いません。 入力できる文字数は最大 16 文字です。
「グループ名」 対象グループのグループ名を指定します。 空欄の場合、グループ名による絞込みを行いません。 入力できる文字数は最大 32 文字です。
「順序」 検索結果の表示順序を選択します。 「昇順」の場合、古いログから 5000 件を表示します。 「降順」の場合、新しいログから 5000 件を表示します。
「キャンセル」 をクリックすると、入力内容を破棄します。
「検索」 上記の指定条件で検索を実行します。

※ 指定条件は、完全一致するように入力してください。

4.3. アカウント

「アカウント」をクリックすると表示されます。




4.3.1. アカウント情報

本セッションのアカウント名、テナント名、テナントコードを表示します。



4.3.2. ログインパスワード変更

本セッションのアカウントのログインパスワードを変更します。

A screenshot of the 'ログインパスワード変更' form. It contains three input fields: '*現在のパスワード:', '*新しいパスワード:', and '*新しいパスワード(確認):'. A '変更' button is located at the bottom right of the form area.

「現在のパスワード」

現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワード」

新しいパスワードを（1～16文字で）入力します。

「新しいパスワード（確認）」

確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。

「変更」をクリックすると、変更内容が反映されます。

4.3.3. 多要素認証

- TOTP

- RFC 6238 に準拠した TOTP 認証アプリケーションを使用することができます。
- Android や iOS で動作する以下のアプリケーションについては動作確認済です。
 - ✓ Microsoft Authenticator
 - ✓ Google Authenticator (Google 認証システム)

- バックアップコード

- TOTP 認証アプリケーションが使用できない状況(スマートフォンの紛失など)に備えて、事前に生成しておいたコードを、TOTP 認証アプリケーションの代わりに使用することができます。このコードをバックアップコードと呼びます。
- 一度使用したバックアップコードを、再び使用することはできません。
- バックアップコードは、データ退避・復帰・インポートの対象です。システムデータ復帰、テナントデータ復帰・インポートで、バックアップコードを復帰します。

- その他

- Init スイッチによる起動時に、admin アカウントの TOTP を無効にします。

- 注意点

- 本機能は、時刻情報を元にして動作します。CMS と TOTP 認証アプリケーションの時刻が同期していないとログインすることができないので、注意してください。

多要素認証	
	TOTP 有効 TOTP 無効 バックアップコード作成 バックアップコード表示
「TOTP有効」	TOTPを有効にします。
「TOTP無効」	TOTPを無効にします。
「バックアップコード作成」	バックアップコードを作成します。
「バックアップコード表示」	バックアップコードを表示します。

4.3.3.1. TOTP有効

TOTP を有効にします。

TOTP 有効 TOTP 無効 バックアップコード作成 バックアップコード表示

「TOTP 有効」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

パスワード確認 ×

* 現在のパスワード:

キャンセル OK

現在のパスワード（admin アカунトのログインパスワード）を入力します。
「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

TOTP を有効にしますか？

キャンセル OK

「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

- QR コード

TOTP 有効化 ×

QR コード SECRET



* TOTPコード (確認):

キャンセル 設定

- SECRET

TOTP 有効化

QR コード SECRET



* TOTPコード (確認):

キャンセル 設定

QR コード	TOTP 認証アプリケーションで QR コードをスキャンします。 6 桁の数字が表示されます。 表示された数字は、一定時間が経過すると自動的に更新されます。
SECRET	QR コードをスキャンできない場合は、 SECRET を手動で入力することも可能です。 TOTP 認証アプリケーションに SECRET を入力します。 6 桁の数字が表示されます。 表示された数字は、一定時間が経過すると自動的に更新されます。
TOTP コード (確認)	TOTP 認証アプリケーションに表示された 6 桁の数字を入力します。
<p>「設定」をクリックすると、TOTP を有効にすることが出来ます。</p> <p>「キャンセル」をクリックすると、TOTP は無効のままです。</p>	

4.3.3.2. TOTP無効

TOTP を無効にします。

TOTP 有効 TOTP 無効 バックアップコード作成 バックアップコード表示

「TOTP 無効」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

パスワード確認 ×

* 現在のパスワード:

キャンセル OK

現在のパスワード（admin アカウントのログインパスワード）を入力します。
「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

TOTP を無効にしますか？

キャンセル OK

「OK」をクリックすると、TOTP を無効にすることができます。

4.3.3.3. バックアップコード作成

バックアップコードを作成します。

TOTP 有効 TOTP 無効 **バックアップコード作成** バックアップコード表示

「バックアップコード作成」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

パスワード確認 ×

* 現在のパスワード:

キャンセル OK

現在のパスワード（admin アカウントのログインパスワード）を入力します。
「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

新しいバックアップコードを作成すると
古いバックアップコードは破棄されます。

バックアップコードを作成してもよろしいですか？

キャンセル **OK**

「OK」をクリックすると、バックアップコードを作成します。

- ※ 新しいバックアップコードを作成すると、古いバックアップコードは破棄されます。
- ※ バックアップコードは 10 個作成されます。
- ※ 一度使用したバックアップコードを、再び使用することはできません。

4.3.3.4. バックアップコード表示

バックアップコードを表示します。

TOTP 有効 TOTP 無効 バックアップコード作成 バックアップコード表示

「バックアップコード表示」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

パスワード確認 ×

* 現在のパスワード:

キャンセル OK

現在のパスワード（admin アカунトのログインパスワード）を入力します。
「OK」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

バックアップコード ×

作成日時	2021-03-09 14:30:22
未使用コード数	10 個

一度使用したバックアップコードを再び使うことはできません。

未使用バックアップコード

バックアップコード ⌵
09492209
16989481
19394824
31881289

使用済みバックアップコード

使用日時 ⌵	バックアップコード ⌵
データなし	

5. Appendix

5.1. サポートについて

- お客様サポート
お客様サポートでは、弊社製品をご購入されたお客様をサポートいたします。
当製品の使用方法や、マニュアルの不明な点については、電話、電子メール、FAX にてお問い合わせください。詳しくは、下記 URL をご覧ください。

<https://www.centurysys.co.jp/support/>

- ダウンロード
本装置の最新ファームウェアや「設定例」等のドキュメントは、下記 URL からダウンロードすることが出来ます。

<https://www.centurysys.co.jp/downloads/>

機能追加や修正に伴い、ファームウェアを随時更新しています。
できるだけ最新のファームウェアで、本装置を運用するようにしてください。

5.2. 工場出荷設定値（初期値）

本装置の工場出荷設定値は、以下のとおりです。

IP アドレス設定	
Ether0	192.168.0.254/24
Ether1	設定なし

管理画面へのログイン	
アカウント	admin
パスワード	admin

5.3. イベントログ一覧

本装置で定義されているイベントログの一覧です。

イベント	説明
機器追加	機器を CMS に登録した。
機器削除	機器登録を CMS から削除した。
HTTP アクセス正常	機器の HTTP アクセスが正しく行われている。
HTTP アクセス警告	機器の HTTP アクセスが正しく行われていない。
コンフィグ登録	機器のコンフィグを CMS に登録した。
コンフィグ削除	機器のコンフィグを CMS から削除した。
コンフィグデフォルト指定選択	コンフィグのデフォルト指定を選択した。
コンフィグデフォルト指定解除	コンフィグのデフォルト指定を解除した。
ファームウェアイメージ登録	機器ファームウェアイメージファイルを CMS に登録した。
ファームウェアイメージ削除	機器ファームウェアイメージファイルを CMS から削除した。
ファームウェアデフォルト指定選択	ファームウェアのデフォルト指定を選択した。
ファームウェアデフォルト指定解除	ファームウェアのデフォルト指定を解除した。
グループ追加	グループを追加した。
グループ削除	グループを削除した。
グループ参加	機器をグループに参加させた。
グループ離脱	機器をグループから離脱させた。
テナントデータ退避開始	テナントデータの退避を開始した。
テナントデータ退避完了	テナントデータの退避が完了した。
テナントデータ退避失敗	テナントデータの退避が失敗した。
テナントデータ復帰開始	テナントデータの復帰を開始した。
テナントデータ復帰完了	テナントデータの復帰が完了した。
テナントデータ復帰失敗	テナントデータの復帰が失敗した。
テナントデータインポート開始	テナントデータのインポートを開始した。
テナントデータインポート完了	テナントデータのインポートが完了した。
テナントデータインポート失敗	テナントデータのインポートが失敗した。
ログイン	アカウントが CMS にログインした。
ログアウト	アカウントが CMS からログアウトした。
ログアウト要求通知	CMS がアカウントに対してログアウトを要求した。
無通信ログアウト	クライアント PC からの通信が一定時間途絶えたため、対象アカウントをログアウトさせた。
スケジュール追加	スケジュールを追加した。
スケジュール削除	スケジュールを削除した。
スケジュール変更	スケジュールを変更した。
スケジュール動作起動	スケジュール動作を開始した。
スケジュール動作を中止	スケジュール動作を中止した。
スケジュールによるデフォルトファームウェア更新開始	スケジュールによる「ファームウェアデフォルト指定選択」動作命令を開始した。
スケジュールによるデフォルトファームウェア更新完了	スケジュールによる「ファームウェアデフォルト指定選択」動作命令をすべて起動した。

スケジュールによる デフォルトコンフィグ更新開始	スケジュールによる「コンフィグデフォルト指定 選択」動作命令を開始した。
スケジュールによる デフォルトコンフィグ更新完了	スケジュールによる「コンフィグデフォルト指定 選択」動作命令をすべて起動した。
スケジュールによる デフォルトデータファイル更新開始	スケジュールによる「データファイルデフォルト 指定選択」動作命令を開始した。
スケジュールによる デフォルトデータファイル更新完了	スケジュールによる「データファイルデフォルト 指定選択」動作命令をすべて起動した。
製品名追加	製品名を追加した。
製品名削除	製品名を削除した。
HTTP アクセス変更	HTTP アクセス設定を変更した。
HTTP 認証情報追加	HTTP 認証情報を追加した。
HTTP 認証情報削除	HTTP 認証情報を削除した。
CMS 起動	CMS が起動した。
CMS 停止	CMS が停止した。
RAID エラー発生	RAID エラーが発生した。
RAID エラー復旧	RAID エラーが復旧した。
SPARE エラー発生	SPARE エラーが発生した。
SPARE エラー復旧	SPARE エラーが復旧した。
DISK エラー発生	DISK エラーが発生した。
DISK エラー復旧	DISK エラーが復旧した。
メール送信失敗	メール送信が失敗した。
メール送信	メール送信が成功した。
データファイルタイプ追加	データファイルタイプを追加した。
データファイルタイプ削除	データファイルタイプを削除した。
データファイルタイプ変更	データファイルタイプを変更した。
製品データファイル登録	製品のデータファイルを CMS に登録した。
製品データファイル削除	製品のデータファイルを CMS から削除した。
機器データファイル登録	機器のデータファイルを CMS に登録した。
機器データファイル削除	機器のデータファイルを CMS から削除した。
データファイルデフォルト指定選択	データファイルのデフォルト指定を選択した。
データファイルデフォルト指定解除	データファイルのデフォルト指定を解除した。
イベントトリガー追加	イベントトリガーを追加した。
イベントトリガー削除	イベントトリガーを削除した。
イベントトリガー変更	イベントトリガーを変更した。
イベントアクション追加	イベントアクションを追加した。
イベントアクション削除	イベントアクションを削除した。
イベントアクション変更	イベントアクションを変更した。
イベント定義追加	イベント定義を追加した。
イベント定義削除	イベント定義を削除した。
イベント定義変更	イベント定義を変更した。
アカウント追加	アカウントを追加した。
アカウント削除	アカウントを削除した。
アカウント変更	アカウントを変更した。
アカウントロック	アカウントをロックした。

FutureNet CMS-1300 ユーザーズガイド(管理者編) Ver.2.4.0 対応版
2021年3月版
発行 センチュリー・システムズ株式会社
Copyright © 2020-2021 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.